

ピュアな喘息FAQ 4

『成人喘息は完全に治るのか？』

私の主治医は「大人の喘息は治らない。治った人を見たことがない。一生薬は止めるな減らすな、コントロールするだけ」と言います。完全に治るということは絶対に無いのでしょうか・・・

こんな質問がよくあります。それに対する私のピュアな回答は以下のようなものです。

成人喘息でもよくなり治った人は沢山います。その先生は見たことがなく、そこにはいないというだけの話です。完治と言う概念が問題なのですが、棺桶に入る寸前まで再発を見届けないと完治とは言えないと言う定義でいくと、死んでみないことには分からないということになるのです。風邪でも胃潰瘍でも多くの病気が一度完治することはあります。しかし、再発するということはあるでしょう。それと同じで、よくなり治ることはあるけれども、成人喘息が風邪や疲労で再発することは有り得るのです。

もちろん、喘息の人の中には、治療方法に恵まれず、重症で大変なままの人もあったであらうでしょう。喘息にも、ピンからキリまであります。全員が重症で治らないわけではありません。もし誰も治らなければ、喘息の人で世の中は溢れかえってしまいます。外来も溢れかえってしまって、混雑が増すばかりでしょう。私の外来はそんなことはありません。

今元気で何でもないように見える人が、数年後に大病を患うということも良くあることです。一病息災といいますが、少し病気をしたとしても良くなって、ずいぶん健康に過ごす方は沢山おられます。

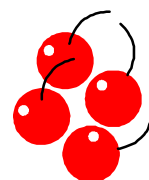
よくなり、治るように第4回成人喘息ゼミナールや第2回喘息大学同窓会が行われました。実際の学習や交流はよくなり治る可能性を確信させるものがあります。人間の中には、自然治癒力というものがあり、それをみんながみんな引き出し合えば、よくなるものです。

最大限に引き出す治療方法、考え方がより多くの人をよくし治すのではないのでしょうか。そのことは、「喘息患者学入門」や「喘息をよくし治す」という本を良く読んでいただければ分かることです。よくなり治らないとか、コントロールするだけしかないとか、そういう治療方針では、そういう結果に終わる

のです。今号の医学シリーズ「25年目の真実」をご参照下さい。

私どものところでは、よくなり治った方が沢山おられます。したがって実に沢山の新しい患者さんが石川県、北陸、全国から来られます。よくなり治って来なくなる患者さんが沢山おられますので、外来が溢れかえってしまうということはありません。もちろん全員がすぐ治るというわけではありません。一定数の人が通っておられます。しかし徐々に良くなって行かれておられるのです。よくなり治った人が懐かしがって来ることさえあります。

どんなに重症の人が沢山紹介されてきても毎日プレドニン1錠以下になっているし、それは数人というのが実態です。成人喘息でもよくなり治りうる可能性があるし、そうになっている成人喘息の人も多いというのが結論です。しかし、そうなるためにはそうなる指導や患者さん本人の努力もあるでしょう。この「わかば」が患者さんと共に成り立ち、成人喘息ゼミが希望に溢れて行われているのは、よくなり治るのが実感できるからです。



『では小児喘息は完治するのでしょうか？』

2年間発作が無ければ治ったと言われましたが。

確かに昔は小児喘息寛解の基準として「2年以上発作がなければ治癒したとしてもよい」という基準がありました。その場合でもあくまでも一応の基準です。小児期でも3年目に風邪をひいて発作が出るかもしれませんし、大人になって90歳ぐらいになって、死ぬ間際に喘息が再発するかもしれません。そういう場合、実は治癒していなかったとするのかどうかです。小児喘息さえも死んだ後でないと治っていたかどうか分からないというのでは困ります。それで一応目安としてそのような基準になっておりました。最近の小児喘息のガイドラインではもう少し厳密に定義をしました。「喘息患者学入門」という私の著書から引用しておきます。

小児気管支喘息

予後（転帰）の定義ならびに判定基準

- 1) 機能的治癒：無治療、無症状の状態が5年以上持続しており、かつ肺機能検査、気道過敏性試験が健常人と同等に回復している場合
- 2) 臨床的治癒：無治療、無症状の状態が5年以上継続している場合
- 3) 寛解：無治療、無症状となった時から寛解とする
寛解1年、2年、3年、4年目と表現する

小児喘息は30%(重症)～80%(軽症)は小児期に寛解する。大人になって約10%ぐらい再発があると言われていています。(報告によって変動あり)